



新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

「進一歩」(しんいつぽ)

令和八年の新しい年が明けました。檀信徒の皆様には、ご家族お揃いで、新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

年頭にあたり、今年は『進一歩』という言葉をお届けします。



「進一歩」とは、禅語「百尺竿頭進一歩」の「進一歩」です。「百尺竿頭」とは、長い竹竿の先ということで、私も人間が今生きている現実。すなわち、いま生きているものはすべて、刹那生滅・一瞬、一瞬・生滅を繰り返し、死に向かつて常に変化していきます。まさに絶体絶命の断崖絶壁を生きる場所として、いることを自覚しなければなりません。

すでに努力・工夫を尽くしたうえに、さらに尽力すること、また、十分に言葉を尽くして説いたうえに、さらに一歩進めて説くことの教えです。

私たちは、「いのち」を支える心身に感謝し、人のために生きる生き方をすることに「更に一歩」を進めましょう。

合掌

令和八年行事(予定)

一月一日～三日	新年の祈禱(早朝)
一月三日～七日	ぎふ七福神お開帳
一月二十一日	大般若祈禱会
二月七日	涅槃会・婦人部会
三月一日	十三参り(募集中)
三月十七日～二十三日	春彼岸
三月二十九日	しだれ桜まつり
四月八日	花まつり(降誕会)
四月二十一日	弘法大師祥当忌
六月七日	奉仕作業
七月二十六日	子ども禅の集い
八月七日	山門施食会
八月十三日～十五日	お盆
八月二十四日	地藏盆
九月二十日～二十六日	秋彼岸
十月三日(第一土)	開山忌・先祖供養
十一月二十三日	七福神布袋尊大祭
十二月五日	成道会
十二月三十一日	除夜の鐘
お経の会 第一土曜日	午後一時三十分より
ヨガの会 第二土曜日	午前八時～
坐禅の会 第二日曜日	午前八時～
写経の会 第四土曜日	午前十時～



QCサークル小集団改善大会(6/18 大垣)



日本宗教連盟理事長表彰(8/28 東京)



大会祝賀会(11/29 岐阜)

「ぎふ七福神」

創設十五周年

令和八年は「ぎふ七福神」が創設されてから十五周年を迎えます。創設当初、岐阜には金華山と鶴飼のみで半日程度で周遊し、観光できる場所がないのでは・時を同じくして我々僧侶仲間の間でも何かいい案がないかと思案していたのです。そうした中で意見の

一致を見たのが七福神巡りでした。東京には江戸時代から多くの七福神霊場があります。銀座七福神、谷中七福神、亀戸七福神等々：都内各所で七福神巡りを確認することが出来ます。私もお参りさせていただきましたが、どの霊場も半日程度で十分に回ることが出来ます。

ます。

コロナ禍を除き毎年のお正月には本当に沢山の方々にお参りいただいています。また、各霊場では、趣向を凝らした「大祭」を催し、地域おこしの一環として、近隣の皆様方から親しまれています。

今後とも皆様方のご援助とご助力を切に願っております。最近、書籍やテレビでも紹介され、千葉とか大阪、埼玉など遠方よりのお参りの方もあります。

その一つが『七福神めぐりのひみつ』桜井識子著（発行PHP研究所）です。日本全国あまたある霊場から選んでいただき恐縮しておりますが、「自分でご朱印を押す七福神めぐり」と特徴をつかんで紹介していただいています。この本を小脇に抱えながらお参りされ



江戸庶民に流行した七福神巡り、実はこのお参りこそがお正月の庶民の楽しみの一つだったのです。あちらでは「おでん！」こちらでは「お汁粉！」「甘酒！」町歩きをしながら食べたり買い物したり、楽しみながらのお参りが目に浮かぶようです。このような背景をもとに「ぎふ七福神」は生まれ、十五年が経過しようとしており



第19回
しだれ桜まつり
令和8年3月29日(日)
11:00~16:00



ている方を見かけると、ついついどこからですかと声をかけてしまいます。また、最近では、寺院関係の業界誌である『月間住職』から依頼があり「お正月の七福神めぐりで大評判の寺院に学ぶ―多くの参拝老若に喜んでもらう秘訣―」と題して、紹介されました。十五年間の地道な活動の賜物と感謝いたします。

さらなる努力精進を皆様方と共に重ね、一歩前進したいものです。よろしく願います。

岐阜県宗務所地方研修

能登総持寺祖院への

地方研修を終えて

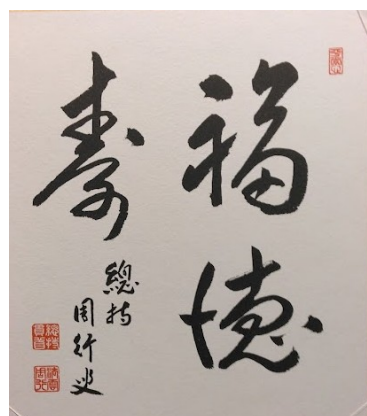
大島 明美

（曹洞宗岐阜県宗務所では福井の永平寺と横浜の總持寺の両本山への研修を隔年で行っており、ますがその間に各地の代表的寺院への研修を組み入れて檀信徒の方にお参りいただいています。これを地方研修といいます。）

目的地が近付くにつれて、道路脇には工事車両や赤土の斜面がどんどん増え、まだまだ復興までには時間が必要なことを教えてくれました。

今回、一番心に残っているのは、総持寺祖院の副監院高島弘成老師のお話です。

若い修行僧達と、来る日も来る日も、いつ終わるともわから



ない震災後の後片付け、復興作業。 私たちにはきつと分からない苦労が、たくさんあったであらう中で、それだからこそ、たくさん得た物があつたと仰っていました。

地域の方たちとの絆もそうです。失った有形の物は沢山あつたが、その代わりに多くの物が得られたという体験談は、本当に感動的でした。特に一緒に苦楽を共にした若い修行僧を、修行期間が終わり返さなければならぬ時の、胸にポッカリ穴が開くような、空虚な思いを聞いたときは、涙が出ました。人の絆の重さです。

日々、生活する中で、私も絆

を大切に、感謝して過ごしているように思います。

このような、機会を与えて頂き有難うございました。

懇親会の席上のビンゴ大会で總持寺の禅師石附周行猥下の揮毫色紙が当たったそうです。おめでとうございました。

令和七年十月十日

鵜飼屋布袋尊大祭

無事円成

十一月二十三日は、「鵜飼屋布袋尊」の大祭を行いました。今年でもう十四回目です。皆さん方に



は、お正月の「夢めぐり」としての恒例行事に加えていただき、お参りしていただく方も多くなりました。



先日も「CBCテレビのチャンネル！」で人気のアナ友廣南実の「地元いいところ自転車旅」で雨の中、駆け巡っていたとき、テレビで放映されました。その時の様子は「ぎふ七福神」公式ホームページにてご覧いただけます。

最近では、「歩いて」とか「自転車」などそれぞれの方法で楽しんでお参りしていただいています。

大祭は、大般若転読法要。特別祈祷の方には願目（願い事）を回向させていただき、お参りの方すべてに、幸多かれと「大般若理趣

分」の経本にてお加持（かじ）を。「布袋尊のお札」をお渡しいたしました。終わって、お話し、恒例の「お菓子まき」にて無事終えさせていただきました。

また、来年もよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

曹洞宗岐阜県青年会活動

副住職 岩水峰雪

令和七年十一月二十九日「曹洞宗岐阜県青年会創立五十周年記念大会」が無事、円成いたしました。

私は二年前から青年会に所属させていただきました。この一年間は、大会のテーマである「生きる」為に「今、ここ」をどう見つめ現代に伝えていくかを、毎月の事前研修で、多角的な視点から禅を学び、深め、意見を交わし合う会を開いてきました。

当日の配役は、大般若祈祷会の

導師の送迎、座談会では九名の登壇者の一人として登壇させていただきました、その後の祝賀会では司会を務めさせていただきました。

座談会は新しい試みとして、ジブリプロデューサーの鈴木敏夫さんと九人の禅僧が「今ここに生きる理由」をテーマに「禅について、自分について、今ここについて」意見を交わしました。

鈴木さんの自分が大事にしている言葉は何かという問いに、「どうにもならんことはどうにもならんどうにかなることはどうにかなる。」という言葉を紹介してくださいました。

『禅とジブリ』はかけ離れてい



るようですが、「ありのままを見つめるという視点」は、現代をどう生きるのか、過ごしていくのかという「生き方」に指針やヒントをいただいたような気がしました。ご来場くださいました皆さま、ありがとうございました。

お庫裡のつぶやき

お手本は身近に

最近、「ぼけない〇〇老けない△△」といった見出しの新聞記事や書籍に目が留まります。そうなんです。私も気になるのです。これから先のことが。

そこで、興味津々で読んでみると、大方、運動、睡眠、食事、趣味を持つことが大事、社会とのつながりを持つことが大事という結論に至ります。そして、「キウヨウ」「キョウイク」が大事と。

待てよ。そのような暮らしをされている方は、すぐ近くにおられるではありませんか。手持ちの布きれで、バッグや手提げを工夫して作られるAさん。地域のマージ

ヤンクラブに通うBさん。わざと二日前の日記を書くCさん。地域の健康体操を指導されるDさん。それに喜んで参加する方々。料理の大好きなEさん。詩吟の指導に出かけられるFさん。バスを乗り継いで映画を見てこられたGさん。

「畑に着くまでに何人にも会い、話していると時間がかかるけど楽しいよ。手をかければ作物は大きくなるし。」と野菜作りの上手なHさん。皆さん、お元気です。皆さん、「今日用がある」「今日行く所がある」のです。用事を作り、出かけて行き、他の人と関わる、自分で工夫する、そのようなことの大切さを姿で教えていてくださることに気が付きました。

私も情報を得ることも大事ですが、今年は身近な方々をお手本に一日一日を大切に、関わりを大切に暮らしていこうと思っています。

岐阜県宗務所「テレホン法話」

0575 (46) 7881

どうぞお聞きください。